

伊野いち参加 持続可能な伊野の未来をつくる

私もまちづくりの一員

向陽中3年 多久和 心

注目を集める伊野のまちづくり。特徴の一つは子ども参加。子どもの世界と大人の世界が交わることに子どもの成長の契機があると考え、取組を重ねてきました。子どもも地域の大事なメンバー。意見を表明し、応答してもらえ、そのことを大事にしたいと思います。

多久和心さんの寄稿を紹介します。

私が住んでいる伊野地区は人口一、二〇〇人余の小さな町ですが、とても活気づいています。

持続可能な町にしていくために、大人も子ども一緒になってアイデアを出し、それを実現しています。

伊野いちに小学生参加

二〇一四年から始まった「伊野いち」（年2回開催の産直市）は、生産者の生きがいのため、伊野の農産物を他地域の人に食べてもらうため、伊野を知ってもらうために始めました。伊野を代表するまちづく

りになり、たくさんのお客様を迎えます。

二年目から総合学習の環境として小学生が学校の畑でつくったサツマイモなどを販売するようになりました。私も五・六年生のとき四回体験しました。準備から販売まで全部自分たちで企画したのはとてもよい経験になりました。どのような生産物がどのようなルートを経て消費者のもとに届くのか、どのような接客をしたらお客様に喜んでもらえるのか、勉強になりました。

安全と安心を届ける

それまでの私は、消費者の立場でしか買い物をしていませんでしたが、生産者としての考えで買い物ができるようになりました。なぜ、スーパーに生産者の顔写真が貼ってあるのかわかりませんでした。学習を通して、生産者の顔や情報を伝えるということは消費

者のみなさんに安全と安心を提供しているということに気づかされました。

笑顔の好循環

小学生も、先生から言われなくても、お客様に細かい心遣いをすることで自主性が身についたと思います。自分がした行動でお客様に喜んでもらえる、自分も相手も笑顔になって良い循環を生み出すことができます。

どんな生活なら豊かさを実感できる？ 町の幸福論

小学校六年生の国語の教科書に載っている「町の幸福論」の著者山崎亮さんの出前授業と講演会が二〇一六年から始まりました。

六年生はグループに分かれ、インターネットを活用して他地域のまちづくりについて調べ、それを参考に、どうやったら県内外の人たちが伊野に来てもらえるか、プレゼンしようということになりました。

私たちの発表について山崎さんから言われたのが「他と同じことをして人が集まると思えますか？」。

あんなに長時間かけて一生懸命みんなで考えてきたのに、なんでそんなこと言われなくちゃいけないの、とも思いましたが、確かにそうだなという思いもこみあげてきました。

住んでいる町でなにかしらの活動をしていれば人が集まってくると簡単に考えていたのが甘かった、と今では思います。

伊野にはやる気のある人、それについていく人がたくさんいます。まちづくりににはそういう人たちが不可欠だと思います。私もそんな一員になれるよう、故郷を大事にし、いろいろな活動に参加して、ふるさと伊野を盛り上げていきたいと思っています。

多久和 心

おめでとう！「しまね流福祉のまちづくり活動団体」に伊野いち実行委員会が選

ばれ、一月三十一日、県庁で表彰されました。